

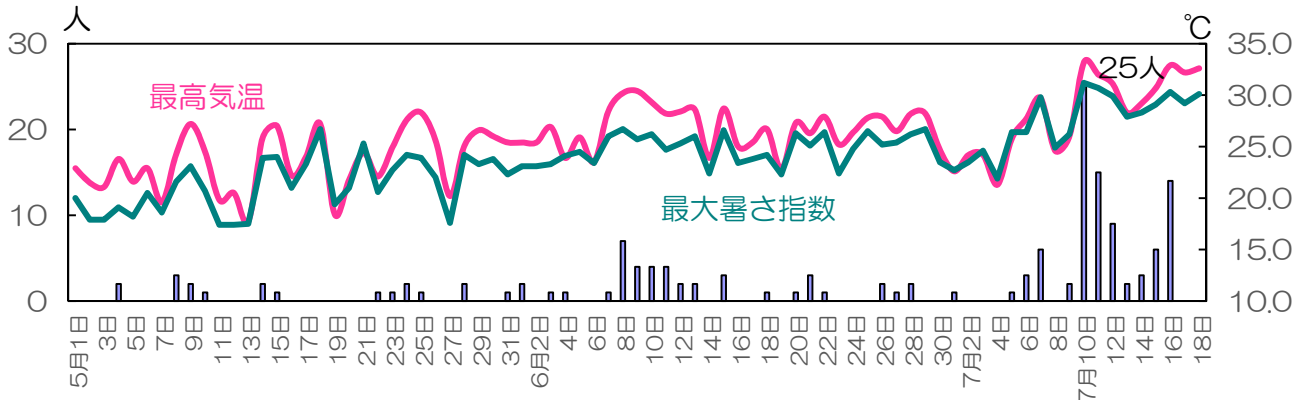
熱中症情報

<搬送数>

令和3年5月1日～7月18日までの搬送数（消防局データを使用）は、計172人（5月19人、6月42人、7月111人）でした。7月はじめの搬送数は少なめでしたが、7月10日に、最高気温33.2℃・暑さ指数31.2℃と、両方とも30℃を超え、搬送数が25人と急増し、その後、最高気温が32℃を超える日は、搬送数も増加傾向です。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。身体がまだ暑さに慣れていない時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の防止とともに、熱中症予防にも心掛けましょう。



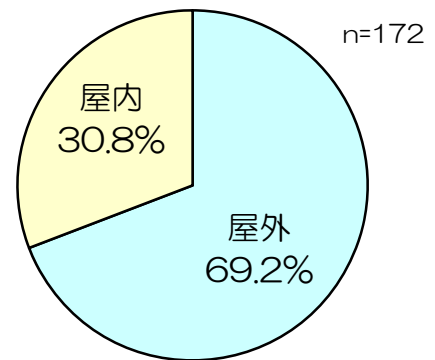
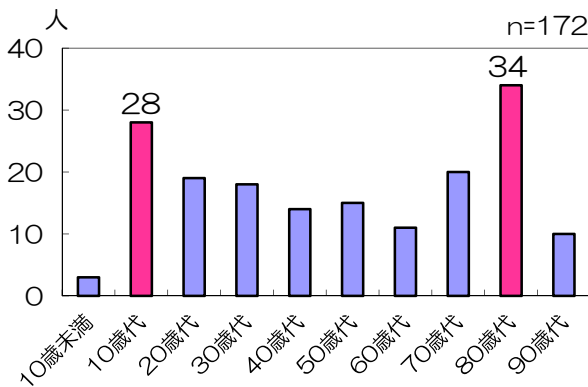
暑さ指数とは？ 人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

<年齢別>

80歳代が34人（19.8%）で最も多く、次が10歳代で28人（16.3%）でした。

<発生場所>

屋外69.2%、屋内30.8%で、屋外での発生が多くなっています。



<重症度>

軽症68.0%、中等症29.7%、重症1.2%、重篤1.2%でした。高齢者（65歳以上）の中等症以上の割合が45.1%と、高くなっており、高齢になると重症化の傾向が伺えます。

